

分科会名 <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 5px 0;">理 科</div> 平成30年6月6日（水）	会 場 川崎市立 菅 小学校 助言者 川崎市立小学校理科 教育研究会副会長 <div style="text-align: right; padding-right: 20px;">小川 俊哉 葉倉 朋子</div> 川崎市総合教育センター 永田 賢 授業者 川崎市立菅小学校 山口 直子 石田 健夫 司会者 川崎市立今井小学校 小野 薫 記録者 川崎市立末長小学校 藤澤 龍太 <div style="text-align: right; padding-right: 20px;">川崎市立東菅小学校 松木 瑞穂</div> 世話人 川崎市立木月小学校 山口 景勝 出席者数 130 名
---	--

案の概要

研究テーマ「自らかかわり 分かりやすく表現し 考えを高める子」
 サブテーマ ありのままに見ること、比べることを大切にした学習過程を通して

2 研究協議の概要

4年生部会「電気のはたらき」

- ・学習問題に対して予想をたてる。電気の流れる向きについて根拠のある予想や仮説を立てるのは難しい。3年生での既習や前時までの体験をもとにしていくのがよいのではないか。
- ・検流計を出すタイミングが遅かったのではないか。児童の話し合いの中で、検流計が必要になったところを見計らい紹介していく。

6年生部会「ヒトや動物のつくりとはたらき」(呼吸)

- ・学習問題…「比べてみよう」は適切であったのか。
- ・温度、空気の量の観点はどうかであったのか。
- ・子供への投げ方を変えることで子供の反応が変わる。
 「～してみてください」(指示)→「～してみようか」(投げかけ)子供が自己決定できるように。

講師より

1. 予想に時間をかける。既習をもとに予想。
2. 実験結果を考える際に、条件制御ができていないのか。
3. つながりを意識…子供の思考の流れに沿って何がつながっているのかを教師が考え、意識していかなければならない。掲示物や子供が思考するのに役立てるように。

3 今後の課題

キーワードがあるだけで方向性が定まる。「入る・出る」でもいろいろな場面で活用することができる。
 《永田指導主事から》

新指導要領と菅小学校の研究テーマのつながり

- 自らかかわり→子どもの思いに寄り添いながら。知りたいと思うような導入。遊び共通体験から学習課題の設定。
 - わかりやすく表現する
 - 考えを高める→自分にはない考えに触れる場、結果と考察を分ける、教師の発問がカギ、単元のつながり
 - ありのままに見る→S27 指導要領より 素直にみることで視点が増えていく。多面的にみるようになる。
 子供に気付かせる視点、つぶやき、価値づけ
 - 比べる→理科の学習のスタート、変化を時間的な前後で比べる、共通点・差異点を比べる。関係づける。
- 4年生授業「電気のはたらき」ワークシートより
 プロペラが回ることと、電流の向きを関係づけて説明することができていない。
 焦点化できるとよかったのではないか。
- 6年生授業 入口出口の視点。その中で何が起きているのか。